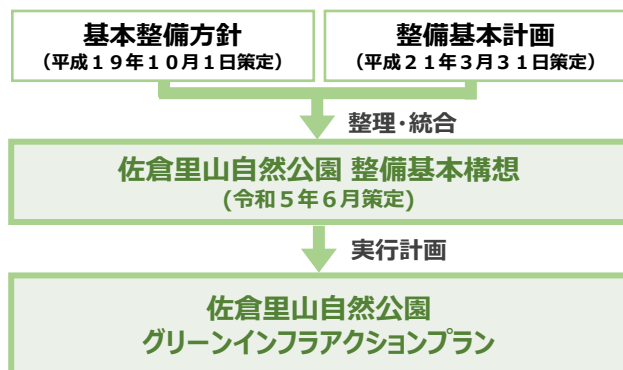


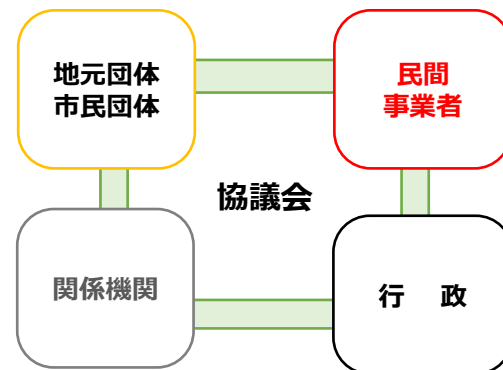
【概要版】佐倉里山自然公園グリーンインフラアクションプラン

アクションプランの役割



- ✓ 市民協働や公民連携等の共創により、豊かな里山環境を保全、活用するため、令和5年6月、「佐倉里山自然公園整備基本構想」を策定
- ✓ 本構想に基づいた実行計画である「佐倉里山自然公園グリーンインフラアクションプラン」を策定

推進体制



- ✓ アクションプランの推進主体として「佐倉里山自然公園協議会」を設立
- ✓ 行政だけではなく、市民団体や民間事業者等との連携を図り、「市民協働」や「公民連携」により事業に取り組む

基本方針・基本施策

基本方針。みどりの保全

基本施策1. 自然環境や景観の保全

- ・適正な維持管理により自然環境や景観を保全します。
- ・保護区等の認定により自然環境や景観を保全します。

基本施策2. 生物多様性の保全（ネイチャーポジティブの推進）

- ・希少な生き物を保護します。
- ・希少な植物を保護します。

基本施策3. 自然環境や生物多様性の学び

・実践の場の提供

- ・環境学習の場として活用します。
- ・生物多様性への理解を深める活動を実施します。

基本方針。みどりの活用

基本施策1. グリーンインフラの推進

- ・気候変動の緩和・適応策（カーボンニュートラル）に資する施策を推進します。
- ・防災・減災に資する施策を推進します。

基本施策2. 心身の健康の推進（ウェルビーイングの向上）

- ・自然散策により心身の健康を増進します。
- ・こどもの自己肯定感を高め、健やかな成長を支援します。

基本施策3. 歴史と文化の継承

- ・農業文化を次世代に伝えます。
- ・上峠台地の整備により歴史と文化を次世代に伝えます。

基本方針。みどりの共創

基本施策1. 市民協働の推進

- ・市民協働による維持管理を推進します。
- ・市民協働による利活用促進を推進します。

基本施策2. 公民連携の推進

- ・民間事業者による維持管理を推進します。
- ・民間事業者による利活用の促進を推進します。

将来像（目指すべき姿）

里山の多様な価値を創出し、人と自然が共生できる“未来のふるさと”

リーディングプロジェクト

- ①OECD認定を契機とした谷津保全プロジェクト
- ②アウトドア・ラーニングプロジェクト

- ③里山健康フィールドプロジェクト
- ④バイオ炭を活用した谷津再生プロジェクト

- ⑤里山大学を核とした共創による里山再生プロジェクト
- ⑥佐倉里山サポーターづくりプロジェクト

01 OECM認定を契機とした谷津保全プロジェクト（みどりの保全）



プロジェクトの概要・目的

- ✓ 近年、気候変動への対策だけでなく生態系の保全が国際的に求められている。
- ✓ こうした中で、佐倉里山自然公園は、市街地にも近接した立地でありながら、地域によって、豊かな生態系の保全・再生が図られてきた、佐倉のふるさとの風景とも言える場所である。
- ✓ 人と自然が共生するこの風景を未来に継承していくために、持続可能なマネジメント計画を策定・実行することで、グリーンインフラとしての里山の機能を最大化していく。
- ✓ 同時に、自然共生サイトへの登録を行うことで、佐倉里山自然公園の価値を発信し、共感してくれる仲間を増やし、より持続性の高いマネジメント体制を構築する。

期待される効果

- ✓ 30by30への貢献
- ✓ 適切な管理による生物多様性の保全・再生
- ✓ 雨水貯留機能の健全化
- ✓ 健全な樹木の生育によるCO2固定
- ✓ 生態系の価値のPR

短期

OECM認定を通じた里山自然公園の価値の発信

生態系の調査データベース化

- ✓ 畔田谷津を中心とした公園予定区域全体の動植物調査の実施
- ✓ 佐倉里山自然公園における生物多様性の価値の整理
- ✓ 希少植物の保全に向けた調査・研究の実施（クマガイソウの遺伝子バンク等）

保全・活動が共生するゾーニング検討

- ✓ 調査結果に基づく保全と活動のゾーニング（団体・企業エリアも検討）
- ✓ ゾーン別の整備イメージの検討
- ✓ 動線計画の検討
※エリア設定によっては整備イメージ動線計画等が後ろにすることも考えられる

モニタリング計画の作成・OECMへの申請

- ✓ 各ゾーンにおける管理目標の設定
- ✓ 管理目標に基づく管理計画の策定
- ✓ モニタリング方法の検討
- ✓ 主体ごとの役割分担の整理
- ✓ OECM（※）の認定
※自然保護地域以外で生物多様性の保全に資する地域

次の展開

モニタリング計画に基づく健全な里山環境の再生

※他のリーディングプロジェクトとの連動を加速させながら展開

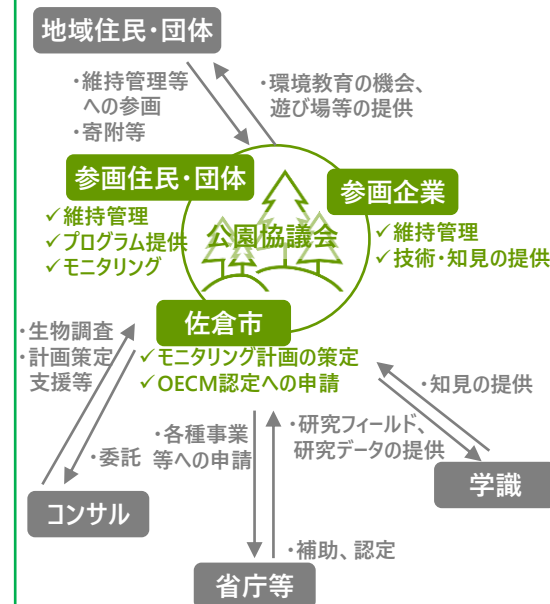
里山マネジメントの展開

- ✓ 持続的なマネジメントの実施
- ✓ 生物の生息・生育空間の創出による生物多様性の確保に資する公園整備（ネイチャーポジティブ公園事業の活用を想定）
- ✓ 休耕田の再生や池の整備を通じた湿地再生
- ✓ 伐採木の活用

持続性の強化

- ✓ 情報発信手法の検討
- ✓ 資金調達手法の検討

プロジェクトの事業スキームイメージ



02 アウトドア・ラーニングプロジェクト（みどりの保全）



プロジェクトの概要・目的

- ✓ 近年、STEAM教育など分野横断型の課題解決能力に注目した教育等が進められており、野外体験保育などの自然をフィールドとした学習プログラムなども広がっている。
- ✓ 佐倉里山自然公園においても、地域主導によって森のようちえんやプレーパーク等、自然を活かした遊びや学びが行われている。
- ✓ こうした活動の活性化を促しプログラムの充実を図りながら、アウトドア・ラーニングの場として、佐倉里山自然公園を整備するとともに、周辺施設との連携を加速させることで、子育て世代に選ばれるまちづくりに貢献しつつ、“ふるさと”として里山に親しんでもらい次の世代に継承する担い手の育成・確保を図る。

期待される効果

- ✓ 自然・環境、ゼロカーボンシティ宣言への関心向上
- ✓ ウェルビーイングの向上
- ✓ こどもの非認知能力の向上
- ✓ 地域コミュニティの活性化
- ✓ 子育て世代の移住定住の促進

短期

アウトドアラーニングの場としての環境整備

既存活動の継続的な実施と調査

- ✓ プレーパーク、森のようちえんなどの継続的な実施
- ✓ 野鳥観察会や自然観察会の継続的な実施
- ✓ こども参加型の動植物調査等（動植物との触れ合いの機会創出）

“ちばの森あそび”環境の検討とPR

- ✓ 動植物図鑑・樹名板などの作成
- ✓ 活動情報の発信・PR
- ✓ 利用者目線の場の計画
- ✓ 近隣の幼稚園・保育園や小学校への森林環境教育プログラムの開発・提供

アウトドアラーニングの場の整備

- ✓ アウトドアを通じた体験・教育の場としての空間整備
- ✓ 上峠城跡等の遺跡の保存・活用の場としての空間整備（保存するだけでなく、実際に体験して、学べる場への整備）

次の展開

市内外との連携したアウトドア・ラーニングの拠点化

※他のリーディングプロジェクトとの連動を加速させながら展開

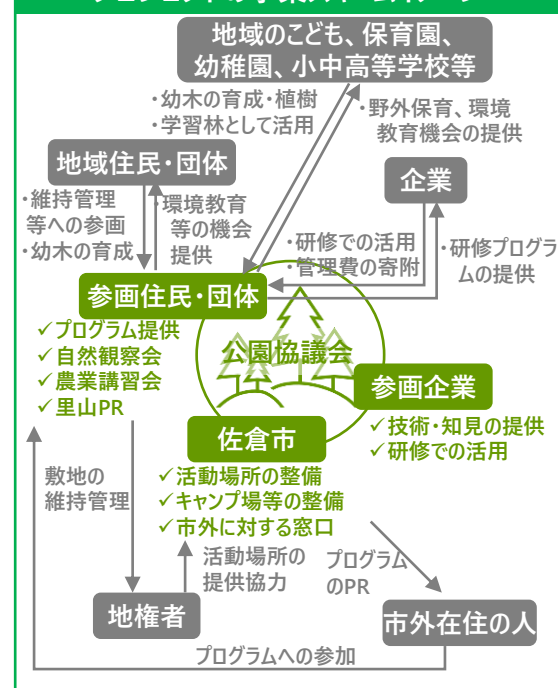
市内周辺施設との連携促進

- ✓ 市内の周辺資源（印旛沼）等と連携したプログラムの開発・提供

市外との連携促進

- ✓ 都内などの市外からの受入れ環境の整備
- ✓ 都市部の保育・教育施設との連携体制の構築

プロジェクトの事業スキームイメージ



03 里山健康フィールドプロジェクト（みどりの活用）



プロジェクトの概要・目的

- ✓ 成熟した都市の中では、ウェルビーイングや健康がまちづくりの重要な要素となっている。実際に高齢化が進行する中で、健康まちづくりに注力する自治体も多い。
- ✓ 里山自然公園の周辺には、東邦大学医療センターや高齢者福祉施設等が立地しており、日々の散歩やリハビリテーション、リフレッシュ等、自然の中で過ごせる場へのニーズは高いと考えられる。
- ✓ そこで、里山の自然環境を活かしたフットパスの整備や周辺施設と連携した健康づくりプログラムの開発・提供を通じて、佐倉里山自然公園を「里山健康フィールド」として整備するとともに、市内の施設との連携を加速させることで佐倉市の健康まちづくりにおける拠点として育成を図る。

期待される効果

- ✓ ウェルビーイングの向上
- ✓ 市民の健康増進・健康寿命の延伸
- ✓ 市への来訪者数の増加

短期

里山×健康のフィールド整備

健康プログラムの提供・検証

- ✓健康づくりプログラムの試行的実施
- ✓イベント等での効果測定・検証
- ✓既存散策ルートの補修・管理

連携体制の構築とルート検討

- ✓病院や高齢者福祉施設等との連携体制構築（意見交換等から）
- ✓意見を踏まえたフットパスルートの計画・検討

フットパスの整備

- ✓リハビリ・セラピー等にも使えるフットパスの整備
- ✓散策を通じた自然や動植物との触れ合いによる健康寿命の延伸

次の展開

市としての健康まちづくりの加速
※他のリーディングプロジェクトとの連動を加速させながら展開

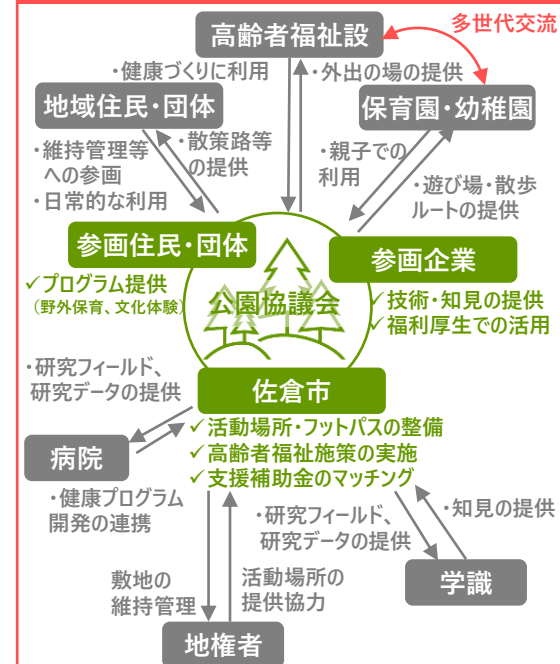
周辺との連携促進

- ✓市内の周辺資源（印旛沼）等と連携した回遊プログラムの開発・提供

滞在型の回遊・体験の促進

- ✓市内での長期滞在によるリトリートプログラムの開発・提供
- ✓里山×健康フィールドとして情報発信・PR

プロジェクトの事業スキームイメージ



04 バイオ炭を活用した谷津再生プロジェクト（みどりの活用）



プロジェクトの概要・目的

- ✓ 2050年のカーボンニュートラルを目指し、佐倉市はゼロカーボンシティ宣言を行い、様々な施策を行っている。
- ✓ 里山自然公園は、広大な緑地として、CO2の吸収源となるだけでなく、伐採竹などを炭化を通じて空気中に排出されるはずであったCO2を固定化する、バイオ炭に関する取組も行われている。
- ✓ こうした取組の加速に向け、バイオ炭の活用に向けた場づくりやクレジットの創出・売却の仕組み構築等を図り、カーボンニュートラルの実現に貢献する。
- ✓ バイオ炭を土壌改良材として活用し、遊休農地を有機農業の体験の場として整備するとともに都市部等との米を通じた連携により、循環型の有機農業を通じた谷津の再生を図る。

期待される効果

- ✓ カーボンニュートラルへの貢献
- ✓ オーガニックビレッジへの貢献
- ✓ 耕作放棄地の縮小・谷津の再生
- ✓ 持続可能な維持管理体制の構築

短期

バイオ炭によるカーボン・クレジットの創出

バイオ炭活用環境の整備

- ✓ 炭化炉整備の計画検討
- ✓ バイオ炭づくりの体験プログラムの提供
- ✓ バイオ炭を活用いただける農家との連携体制構築
- ✓ J-クレジット申請（プロジェクト登録）

実装に向けた検証・準備

- ✓ 炭化炉の整備（グリーンイノベーション基金の活用想定）
- ✓ 削減量のモニタリング
- ✓ 遊休農地でのバイオ炭を活用した有機農業の検証
- ✓ カーボン・クレジット市場、取引事業者等の検討

バイオ炭によるカーボンクレジットの実装

- ✓ 伐採竹などを活用したバイオ炭の製造
- ✓ 谷津での有機農業の実施体制の構築
- ✓ J-クレジットの認証・発行
- ✓ クレジットに関する情報発信・PR

次の展開

カーボンクレジットを活用した有機農業・流域治水の展開

※他のリーディングプロジェクトとの連動を加速させながら展開

J-クレジットとは...?

バイオ炭により本来排出されるはずであったCO2等の固定量を「クレジット」として国が認証する制度。

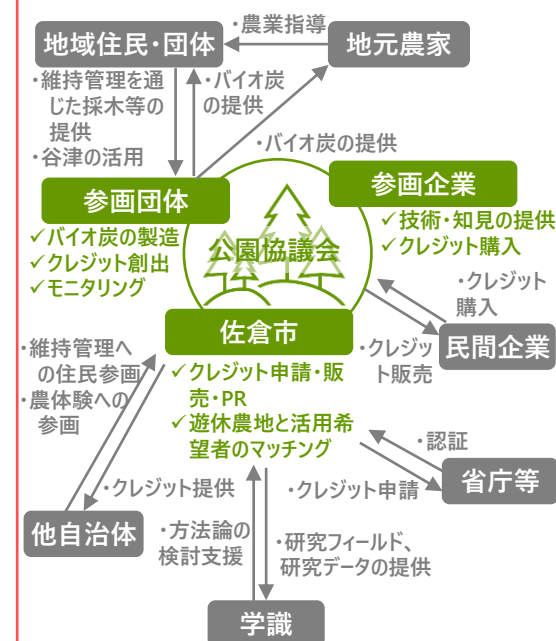
バイオ炭活用を契機とした有機農業・流域治水の展開

- ✓ 都市部とのトレードオフな関係構築
- ✓ カーボン・クレジットを活用した公園・農地の維持管理
- ✓ 有機農業や湿地再生を通じた流域治水の実践
- ✓ 谷津での有機農業の体験プログラムの開発・提供

有機農業・流域治水を通じた都市間連携

- ✓ 環境教育と併せたこども食堂等への米の提供
- ✓ 有機農業に関する情報発信・PR
- ✓ 有機農業を通じた谷津の再生
- ✓ 流域治水を通じた流域スケールでの協力関係構築

プロジェクトの事業スキームイメージ



05 里山大学を核とした共創による再生プロジェクト（みどりの共創）



プロジェクトの概要・目的

- ✓ アウトドアへの関心の高まりから、自然の中で過ごす時間を求める人が増えており、佐倉市は都市部からも来訪できる距離にあることから、こうしたニーズの受け皿になれる可能性がある。
- ✓ 一方で佐倉里山公園の維持管理を担っている活動団体の高齢化が進行しており、将来の担い手確保が課題となっていることから、アウトドア体験や里山管理等のプログラムの提供を行う里山大学の開講を予定している。
- ✓ 里山大学の活動を中心としながら、里山大学のOBや民間企業などのノウハウを活かし、アウトドアを切り口とした里山自然公園の再整備を進めるとともに、担い手の世代交代を促進することで、元来の自然環境を活かした持続可能なアウトドアフィールドとしての里山再生を図る。

期待される効果

- ✓ 来訪者数の増加
- ✓ 地域コミュニティの活性化
- ✓ ウェルビーイングの向上
- ✓ こどもの非認知能力の向上
- ✓ 持続可能な維持管理体制の構築

短期

里山大学を中心としたにぎわい創出

里山大学の開講・活動

- ✓ 里山大学の開講
- ✓ 各種体験プログラムの開発・提供

里山大学の活動環境の整備

- ✓ 里山大学の活動拠点の整備
- ✓ 体験プログラムの実施を通じたモニタリング方法・体制の構築
- ✓ アウトドアフィールドとしての実証実験

周辺施設や民間企業との連携加速

- ✓ 里山大学OBの活動環境の整備（オーナー制度、共有での一部エリア貸出等）
- ✓ 小学校等と連携した野外教育プログラムの開発・提供
- ✓ 公民連携事業の導入に向けた可能性の検討（導入可能性調査）

※用地買収等の進捗状況に合わせて進行

次の展開

里山大学での利用を踏まえた公民連携による整備

※他のリーディングプロジェクトとの連動を加速させながら展開

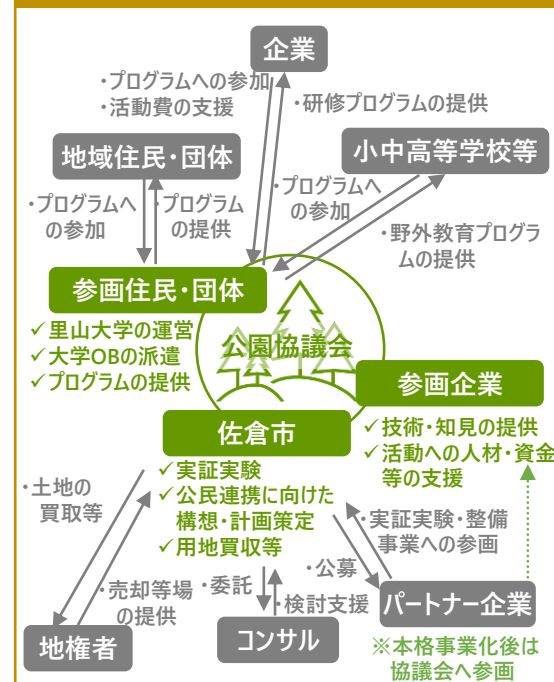
公民連携による更なるにぎわいづくり

- ✓ 市内の公園・緑地などへのOBの派遣・講習プログラムの開発・提供
- ✓ 整備事業者の公募
- ✓ アウトドアフィールドとしての魅力を発信及び市内外から多くの来訪者を呼びこむイベントの実施

公民連携による公園整備

- ✓ 公民連携事業による佐倉里山自然公園の整備

プロジェクトの事業スキームイメージ



06 佐倉里山サポーターづくりプロジェクト（みどりの共創）



プロジェクトの概要・目的

- ✓ クラウドファンディングや企業版ふるさと納税等、市の財政負担によらない資金調達手法が、グリーンインフラ等の公共による自然環境の整備や保全事業においても広がりつつある。
- ✓ 里山自然公園は、維持管理を地域の善意に頼っている部分が多い。その一方で地域団体も高齢化が進んでおり後継者不足が課題となっている。
- ✓ そのため、佐倉里山自然公園の魅力や価値を見える化し、多方面に発信することで、広く知ってもらい、デジタルコンテンツなども活用し、関わってもらえる人を増やしていく。こうした取組を行いファンづくりを進めた上で、資金を出資する等により、現場になかなか来れない人も応援できる仕組みを構築することで、みんなでふるさとの景観を守っていく。

期待される効果

- ✓ 生態系の価値のPR
- ✓ 認知度の向上・ブランディング
- ✓ 里山再生の自分ごと化
- ✓ 持続可能な維持管理体制の構築
- ✓ 維持管理費の補填

短期

コンテンツ整備を通じたファンの拡大

PR戦略の策定

多方面に向けたPR・情報発信

関わり方の拡大

- ✓ 佐倉里山自然公園のPR戦略の検討
- ✓ 楽しみながら学べる体験プログラムの提供
- ✓ 里山の効果の見える化（モニタリング等）
- ✓ 大学等との協働による体験を通じた憩いの場づくり
- ✓ 大学等への研究フィールドとしての提供
- ✓ 地域住民等に向けた体験プログラム
- ✓ サポーターブックの作成
- ✓ 里山の効果に関する学術的な発信
- ✓ 市内企業等へのPR・アプローチ
- ✓ 現場でなくても楽しめるデジタルコンテンツの開発
- ✓ 継続的に関われる体験プログラムの開発・提供

次の展開

サポーターとして応援できる仕組みづくり

※他のリーディングプロジェクトとの連動を加速させながら展開

資金調達手法の検討

- ✓ ふるさと納税やNFT等の応援いただける仕組みの検討（企画・財政部署や金融機関等含む）
- ✓ 企業のCSRやESG投資を見据えた民間資金活用策の検討

民からの資金を活かした維持管理

- ✓ ふるさと納税やNFT等の実装
- ✓ 調達した資金を活かした維持管理の継続的な実施

プロジェクトの事業スキームイメージ

